

タイトル	第一学院高校「社会とつながる講座-グローバルの授業-
応募者氏名	キリーロバ・ナージャ
作品を通して伝えたいこと	「グローバル」は、1つの「世界共通」でくれるものではなく、様々な考え方の集合体でできている。
実践者／団体名	第一学院高校／電通総研アクティブラーニングこんなのはどうだろう？研究所
実施日・期間	2016/10/7-2016/10/28（毎週金曜日90分×4回）
主な実施場所	第一学院高校の全国のキャンパス
取り組みへの参加者及び人数	第一学院高校の1～3年生。35キャンパス、約250名。
目標・ねらい	「グローバル」の授業は海外に焦点を当てるのが一般的だが、今回はあえて国内（各地域）に焦点を当てて授業を行なうことで「遠くはなれた海外」ではなく「身近なところ（日本や地元）」を「グローバル」の入り口にした。そうすることで「グローバル」のハードルをさげることができるのではないかと仮説をたてた。
具体的な取り組み内容及び工夫・配慮した点等	<p>●取り組みの内容</p> <p>4回の授業を通してちょっと変わった切り口から「グローバル」を体験できるプログラムを独自に作成。双方向の講義とワークショップを主な構成とした。</p> <p>1回目は、「日本はこんなに面白い！」をテーマに日本の学校や街中にある「面白い」ものをピックアップし、何がどう面白いのか、海外と何が違うのかについて全国のキャンパスにいる生徒にデジタルツールを使って質問しながら話した。例えば、学校なら名札、はちまき、使い捨て教科書、掃除の時間。街中なら、タクシーの白いシート、トイレのスリッパ、整列乗車、信号の色。生徒が身の回りで日本の面白いところを見つけるミニワークショップを行なった。みんなにとっての常識も実は他の国の人にとっては非常識だったりする。<u>自分（や自分をとりまくバックグラウンド）にとっての常識に気づいて、どうしてそれが自分にとっての常識なのかを理解することが「グローバル」への第一歩ということを教えたかった。</u>それに気づいたのは、フランスの小学校の外国人クラスに転校したとき。そこは、グローバルの縮図でみんなそれぞれの考えをどんどん主張する。フランス語がしゃべれない以前に、<u>自分がどういうバックグラウンドを持っていて、どういう考え方をしている人であるかを知らない</u>と主張することも定まらないし、自分で理解していないと説明ができないと思った。また、自分と違うバックグラウンドの人に出会ってもどうすればいいかわからなかったり、混乱すると思った。1回目は、「グローバル」は自分の身の回りの理解から始まるという授業を行なった。</p> <p>2回目は、「グローバルって！？日本も海外も同じですよ！」をテーマに、やり方や形式などは違うけど、実は日本も海外も似ているところやモノがかなりあるということに気づかせる授業を行なった。大きくは似ているが、やり方や捉</p>

え方などがちょっと違う。その何がどう違うのかを話した。例えば、学校だと学校のスローガン、制服、弁当／給食など。街中だと似たお祭（お盆とハロウィーン）、納豆のような食べ物（ベジマイトなど）、家で靴を脱ぐ習慣がある国の方が多など。ミニワークショップとして「自分の苗字をグローバルに直してみよう！」を行なった。「グローバル」は全然違うと思うと取っ付きづらいものですが、実はパターンが存在する。それに気づくと一気に距離が縮まる。それに気づいたのは、体育の授業。どの国も整列するか、集合するかだった。整列が「背が高い順から」か「低い順から」という違いはあるが基本この2パターンだ。違いを見つけるよりも同じところを見つける方が「グローバル」への近道だということをお話した。

3回目は、90分ワークショップを行なった。お題は、「自分の街と似ている海外の街をみつけて、その街に住む人のためのあなたの街のガイドブックをつくってください。」を出した。全国に35キャンパスあることを活かして、他とは違う「その街らしさ」を見つけるところから始める。これは、1回目の授業でやった「面白い！」を探す練習だ。その街の「面白さ」と共通する面白さを持つ海外の街を今度は探す。様々な切り口の「面白さ」から探す必要がでてくる。違いも知らないと面白いガイドブックは作れない。違いも探す。これは、2回目の授業でやった「日本も海外も同じ」を探す練習だ。そこから様々な街の人のための自分たちの街のガイドブックが35本誕生した。他のキャンパスの生徒は日本の様々な街の面白さに加えて、それに似ている海外の街を1つ知ることになる。完成した35のガイドブックはどれも「グローバル」がつかまっている。3回目のワークショップは1回目と2回目の授業の応用篇を行なった。

4回目は、それぞれのガイドブックを見て講評を行なった。「ガイドブック」ということは「誰かのため」にあるものだ。4つの視点で評価した。1つ目、どれだけ「面白いところ」「同じところ」を見つけられたか。2つ目、その中から相手の街の人が興味があるものをいかに選ぶか。3つ目は、相手の街の人をいかに言葉や絵などで説得するか。4つ目は、意外性。この4つを見て3つの賞とその中からグランプリを1つ決めた。グランプリはデジタルツールを使って実際に出席している生徒にリアルタイムで投票を行い決めた。

● 工夫した点

上に記載した授業内容の工夫以外には、第一学院高校は、通信制の学校であるために、講師と生徒が同じ部屋におらず、各キャンパスにある60インチのモニターを通じて授業を聞くスタイル。先生がただ淡々とスライドを説明するだけでは生徒の興味を持続させるのが難しい。そこで、講師を3人にし、「グローバル」を紹介する人、そこに反応する人、第一学院高校目線の人から構成し、インタラクティブトーク番組の形式をとった。テレビ番組「電波少年」を参考にスライドの上に3人の顔だけ浮かぶ構成を考えた。グリーンバックに試作を重ねたグリーンポンチョをきての撮影や3つのカメラワークなど普段に比べて高度なテクニカルワークが求められた。もう一つ工夫した点は「インタラクティブ性」。講師はカメラに向かった授業をするため生徒の興味度合いや理解度がわからない。そこで、随時リアルタイムで生徒にも質問したり、意見や反応を聞く構成にした。ツールとしては、2択や4択問題、フリーアンサーでの書き込み、ワークショップ内容のリアルタイム共有ができる3つを組み合わせ使った。講師の考え方だけでなく、生徒同士の考え方や捉え方の違いや似ているところを確認しながら授業を進めることで生徒の興味は持続した。

教材・資料

教材／資料は今回のためにオリジナルな教材／ワークショップツールを作成。参考にしたのは、キリーロバ・ナー ज्याによる電通総研アクティブラーニングこんなのだらう？コラム。ナー ज्याが海外の学校を転々としていたときの発見や感じたことを第一学院高校の生徒にも簡易的に体験してもらった。

<p>成果</p>	<p>カタチに残った成果としてまず<u>35のガイドブック</u>がある。生徒たちが自分の住んでいる地域の特徴の他に、日本の違う地域、また海外のいろんな街の情報がたくさん集まった。<u>この情報はもっと知りたいという欲を刺激し、知らない間に「グローバル」のことを学び続ける構造を作った。</u>また、このガイドブックを通じて普段の授業ではあまり起らないキャンパス間での情報交換も行われた。一般的な「グローバル」の授業とはことなり、海外だけではなく、日本についても多くのことが複合的に学べたのではないかと感じる。<u>生徒からもこの「グローバル」なら私にも／僕にもできそうという声が届いた。</u></p>
<p>今後の展開、展望 (この取り組みの生かし方)</p>	<p>今回は、高校生向けの授業を行なったが、他の高校はもちろん、この切り口からの「グローバル」授業はもっと幅広い聞き手にも展開できると感じる。例えば、小学生。いきなり「外国のこと」「英語」から入ると小学生（特に低学年）にわかるように説明するのは難しいが、<u>このやり方なら語学力や海外の知識を必要としないため早い段階から取り入れられる可能性がある。</u>こどもたちの身の回りのことから入ることでハードルを下げ、どうしてそうなのかを一緒に発見していくことで自分の考え方に気づきゆくゆく「グローバル」の場に出て行くときでも、主張や考え方を持って出て行くことが可能になる。つまり、<u>一般的な「グローバル」教育の「準備」としても有効だと考えられる。</u>もう一つは、普段の生活において「グローバル」との接点をなくしてしまったもしくは、ハードルが高くて自分事化できなかった大人たちにもう一度「グローバル」との接点を持ってもらえるキッカケになると感じる。2020年に向けての「グローバル」は、1つの「世界共通」でくれるものではなく、様々な考え方の集合体でできていることの理解を広げるためには有効な手法だと感じている。</p> <p>世界の人とコミュニケーションをするために語学を学んだり、「グローバル」を体験するために海外へ出て行ったりすることももちろん重要ですが、「グローバル」の本質はもっともっと様々な人の考え方やどうしてそうしているかを理解することから始まる。もっともっとそれを多くの人に気づいて、体験して欲しいと思っている。</p>

① サテライトの生放送でICT教育

サテライドで全国35キャンパスに東京芝スタジオから生放送で同時授業。

● 3台のカメラとグリーンバックを使って遠隔にいる生徒を飽きさせないためにトークや質問を交えたインタラクティブな授業。

グローバルってなんだろう？

ロシア フランス
日本 アメリカ

ヒントは、日本から！

4ヶ国の体育
整列派 vs 集合派

違いを探すよりも似ているところに気づいた方が早い！
意外と数パターンしかない！



● 生放送でICT教育

3つのデジタルツールを駆使して授業を進行。選択問題、フリーアンサー、グループワークで生徒の集中力と興味をつないだ。



② グローバルのことを話さないグローバルの授業

「グローバル」の授業は海外に焦点を当てるのが一般的ですが、今回はあえて日本に焦点を当てて日本の面白いところを紹介。みんなでなぜそれが面白いのか、そもそも何のためのものなのかを考えることで日本の中から「グローバル」を学んだ。

例えば、学校だと



名札



はちまき

名札はだいたいどの学校にもありますが、何のためにあるのでしょうか？

では同じくほとんどの人がつけたことがあるはちまきの役割はなんだろう？

↓
どちらも海外の学校ではみたことがありません！



名札の代わりにクラスメイトを紹介するボードがあったりする。



チーム分けのためにゼッケンでもなくそもそも数種類の体操服をきることで自然にチーム分けをするやり方がある。

日本の「常識」として存在することも他の国の人にとっては「非常識」だったりする。逆も同じだ。身の回りのことでそれに気づくことが自分を作る常識を知り、他の常識も知る近道にもなる。そういう様々な常識の集合体が「グローバル」を作る。

③ワークショップ

自分の街によく似た街に住む人のための自分の街のガイドブック 35キャンパスから集まった35本のガイドブック

1. 自分の街の「面白いところ」を探す
2. その「面白いところ」が似ている海外の街を探す
3. ちょっとした違いも探し、興味をひかせる
4. 雑誌の表紙のように発見を魅力的にまとめる



「集まったガイドブッカー一覧」

キャンパス名 広島

フランスノマンディー地域圏
マンシュ県

のための ガイド

意外！こんな
共通点大特集

*巖島神社
海に浮かんでいる
神社

*モンサンミッシェル(MSM)
海に浮かんでいる
修道院

宮島→あなごめし
MSM→オムレツ
でグルメを

グルメを満喫
はずせない通
のおすすめ！

どちらも綺麗な
ライトアップが!!

「ベスト3に残ったフランスマンディー地域圏のための広島ガイドの表紙」